



発行：NPO法人とよなか市民環境会議「エッガ」21
 発行責任者：塩見 光夫
 連絡先：豊中市中桜塚1-24-20
 環境交流センター内
 Tel:06-6844-8611 Fax:06-6844-8668

P.1~3 とよなか市民環境展2021特集/P.4 自然部会/P.5 竹炭プロジェクト・環境と私/P.6 花と緑のネットワーク・エコショップ/P.7 豊中市/P.8 スケジュール

2021年（令和3年）冬号 NO. 74 （通巻第92号）

とよなか市民環境展2021を開催 2年ぶりに豊島体育館にて



新型コロナウイルス感染症の第5波が下火になった11月26日（金）・27日（土）に開催できました。

開催にあたっては、感染症対策ガイドラインを作成し、競技場内の滞在人数を観覧席の収容人数の半数である600人を上限に設定し、一般参加者については2時間までの時間制とし、各参加団体の滞在人数にも上限を設け、検温・手指の消毒・マスク着用、出入り口を分けるなど、できる限りの対策をとって実施し、クラスターの発生がなく終えることができました。スタッフも含めた参加人数は2日間で1,682人で、例年に比べ半数程度でした。

今回のテーマは「SDGsで豊中を笑顔にしよう」です。会場中央に設けられた企画展示コーナーで

は、段ボールでできた巨大なツリーが登場。その根元部分では円座の椅子になっていて、座面にはSDGsの17の目標がカラフルな色で掲げられ、否が応でも！目に付く仕組みです。掲示パネルでは、1945年と2013年の豊中上空の航空写真を並べ、隣に豊中市の緑被率の推移グラフを掲示。別のパネルでは豊中市の一人当たりの部門別温室ガス排出量・平均気温・熱帯夜数の推移、ごみ排出量の推移と府下の他市との比較を、それぞれグラフで掲示し、いずれも視覚にうったえるよう工夫がなされ、とても分かりやすいものでした。それを見て来場者一人一人ができるSDGsの取り組みをふせんに書いて貼りつける試みもよかったと思います。（本展は大阪湾広域臨海環境整備センター「環境保全市民活動助成金」を受けています）



とよなか市民環境展は今年で30周年を迎えました

縁の下の力持ち～環境展を支える人々～

たくさんの人の尽力によって作られる環境展。ポスターやチラシに名前が載ることはなく、お客さんに存在を知られることもない、けれども環境展を開催するのに不可欠な、そんな裏方さんたちにお話を伺いました。

●企画展示担当 福原行雄さん（環境展プロジェクト会議）

プロジェクト会議は実施前に計6回実施し、豊島体育館で実施することを前提とし、場合によっては規模の縮小や会場の変更、中止など状況をにらみながらの推進で、例年以上に検討事項が多いものでした。

今年度のテーマが「SDGsで豊中を笑顔にしよう」に決まり、それにふさわしいモニュメントがほしいと思案していると、毎日放送が段ボール製の巨大なツリーを展示していることを知り、さっそく掛け合ったところ貸出してもらえることになりました。ただし実際の移動が大変でした。ある程度バラすことはできますが、それでも1tのトラックでは1回では運べず、2回に分けての搬入となりました（返



却時は市公園みどり推進課の協力で2tトラックを出してもらえたので1回で済みましたが）。

またSDGsの目標は17項目に及び、それをすべて説明するのも覚えるもの大変なので、特に豊中の環境に密接する6項目を貼った巨大なサイコロ面を振ってもらい、出た目の項目について学習してもらおうクイズ性を持たせた展示もしました。

今後は今以上に企業や団体もSDGsに取り組んでいくと考えられ、それらの団体ともコラボして行くのが良いように思いました。

（聞き手 柿本修一）

●今年も夜遅くまで頑張ってくれました 中島聡子さん（アジェンダ事務局&環境展プロジェクト会議）



昨年可能だったこともあり今年の開催に異論はありませんでした。

会場は現況を鑑み2年ぶりに豊島体育館と決定されました。今年度から豊島体育館の指定管理者は㈱コナミスポーツに変わりましたが、以前の管理者であるスポーツ振興事業団と同様の協力をすると嬉しい返事もありました。

昨年初めて事前申込制を試み、今年はその経験を活かすことができたものの、規模が大きくなった分、定員の設定が複雑になりました。入れ替え制ではないので2区分が重なる時間帯があり、受付で渡すリストバンドの色で区別しました。

26日は事前予約が少なく、小学校や保育所の子どもたちがお昼前に帰ってしまうと、ただでさえ広い体育館、気温も下がった気がして寂しさが増すばかり。ただ午前中來場した小学生が放課後また遊びに来てくれて嬉しく思いました。

27日はステージを復活させましたが、密を避けるために観覧席は競技場の外（体育館の観覧席）に設けました。予想通りステージ発表のある13

時～15時の枠は出演者の関係者からの申込みも多く、定員を超えました（約2倍）が、一般来場者・出演者・スタッフの合計が会場の定員を超えなかったため、全ての申込を受け付けました。但し申込受付期間終了後、出演者の家族等から申込をしていなかったがどうすれば良いか等の問い合わせが多く対応に追われました。また申込の際不備があると当然申込は無効になるのですが、定員には達していなかったためなんとも気の毒な思いがしました。

会場は一方通行としましたが、抜け道がないようにしたり、隣のブースとの距離をとらなければいけなかったり、人だまりができるブースをどこに配置するか等ブースの配置には四苦八苦しました。しかし結果全てのブースを目にすることができ、良かったと思います。

昨年は、屋外会場（菟の寺公園）はとにかく寒く一体感もなかったもので、小規模ながらもいつもの場所で開催できて良かったというのが素直な感想です。来年はもっとたくさんの来場者の方と思い切り盛り上げられますように。

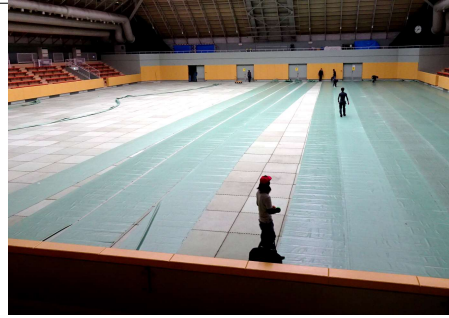
（聞き手 村上知世）

●搬入搬出おつかれさまです 田坂光博さん・中村義世さん（花と緑のネットワーク）

体育館では出展者がコーナー準備を開始する約4時間前から作業がスタートしています。体育館の床にマットとシートを引くことから始まります。以前はこの作業、アジェンダ21の会員や市職員の皆さんが慣れない手付きで苦労していました。今はTSP西日本㈱がスピーディーに行っています。その後は事務局の指示表に基づきパネル・机・椅子に加え電源コードを配置し、次へ備えています。

一方、機材の運搬ではレンタカーを事前に予約、1～2回環境交流センターと豊島体育館を往復し、搬入と撤収を行います。最終日は祭りの後の寂しさが醸す中で、残ったスタッフが片付けに余念がありません。2日間のレンタカー、予約の3時間を超過することなく見事に作業を完了しています。スムーズな積み込みと積み下ろしが見事でした。

開催2日間、来場者受付ではコロナ対策（手指の消毒、検温、参加申込書への記入、入場許可の証明となるリストバンドの配布）もあり従前に倍



化した対応の奔走です。首尾よくできて当たり前、混乱すれば後まで響きます。

会場内の消毒スタッフ、実行委員会のメンバーは自分が所属する展示コーナーから離れ、別途の取り組みや突発的な事柄に対処しなければなりません。日

頃の成果を披露するステージでは、演じる人々を観覧席で拍手を送られる人々も影の主演です。

アジェンダ事務局の入念な計画に基づく安心安全な取り組みは失敗が許されないだけに心痛が絶えないかも知れません。わずか2日間の凝縮した行事ですが、そこには時間で測れない準備と苦労があり、多くの関係者の献身的な力の総和が大きなエネルギーに変化してイベントに繋がっています。

裏方の支えが成功に結び付く教訓を改めて確認できる今年の環境展でした。影の主演が表に出ることはないでしょうが、裏方の動きへも感謝のまなざしが必要かも知れません。（中村義世）

おじゃまします!!

～こんなコーナーがありました～



生活部会

「豊中の不燃ごみがよく燃えている！」の看板に、ン？何？と足を止めました。机には充電式小型家電



のコードレス掃除機やビデオカメラ、手持ち扇風機、電気カミソリから携帯電話、スマートフォン、電子タバコ等々がところ狭ましと並べられており、その数77点。いずれも収集車で何らかの原因で出火に繋がるもの。こんな物が火災の原因!?と思うものが多くありました。

出火は全国で年500件、豊中だけでもこの2年半で18台の車両火災が発生。いずれもボヤですんだものの、捨て方のルールを守ることで防げる事故でした。小型家電の回収BOXに入れる、乾電池は両極にテープを巻くなど簡単ですぐ出来ることでした。

ステージ発表

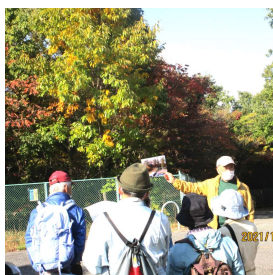
感染を避け、密にならないようにと設定した舞台。パネルで仕切られ、赤いカーペットが映える舞台上で子ども達はポンポンを手に笑顔あふれる演技を披露してくれました。会場の観覧席はそのままステージ用の観覧席になり、多くの保護者や関



係者が熱心に拍手を送るさまに今年ここで開催できてよかった

と改めて幸せな気持ちがわいてきました。ステージの回数は例年より少なかったが今できる事にむかいかい姿勢は素晴らしい。来年こそ心配せずに踊ったり、歌ったりしたいね。ステージが終了するたびに消毒してくれたスタッフにも感謝します。

（新開悦子）



11月17日、好天のもと参加者15人、会員7人で実施しました。挨拶の後ビニール袋が配られましたが、これは拾った落ち葉やドングリを入れて集め、持ち帰って今日の振り返りをおこなうためのものでもあります。解説は自然部会の現部会長の真野隆夫さんと前部会長の山口壽さんをお願いをしました。



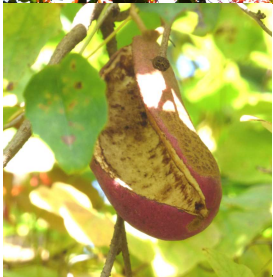
最初に向かったのは新千里西町公園です。普通に見られる公園木の中から、特にクスノキの葉についての説明が興味深かったです。もともと防虫剤として使用されますが、その葉の3交脈の接点には小さな瘤があって、ダニ室と呼ばれています。普通は目に見えませんが15~50匹ぐらいが住んでいて葉の汁を吸って生きている、という話を皆さん静かに聞いていました。その後島熊山へと向かいました。



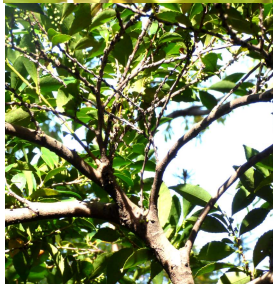
島熊山は昔は尾根筋沿いにアカマツがあり、中層にはコナラなどがある雑木林でした。しかし盛んな炭焼きのために伐採が行なわれ、今ではモウソクチクが侵入しており、森は10年で変わっていくとのことでした。いよいよ観察に入ります。



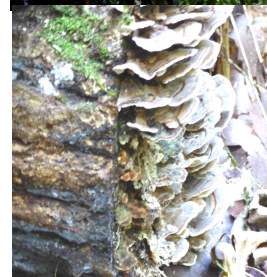
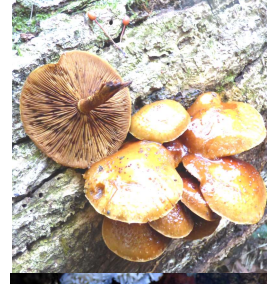
駐車場から古池に下るまでの百数十メートルにイロハモミジやハゼノキの紅葉、コナラやアカメガシワの黄葉などが盛りと秋を感じさせてくれます。黒っぽい色の実をつけたトウネズミモチやヤブニッケイの常緑樹もあります。枯れた姿のままのヌスビトハギがあり、豊中では稀少植物なので見ることができて良かったです。またミツバアケビやサルトリイバラなどのつる性の植物も目につきます。短い距離の中でまだまだ沢山の植物に会うことができました。



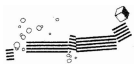
さらに進んで行くと1メートルほどの長さに伐採されたコナラの枯死木が積んであり、よく見るとキノコがついていました。写真に撮って図鑑で調べてみると、白色の細かい糸状に枝分かれている、サンゴハリタケと思しきキノコもあり全体では6種類を数えました。すぐ傍の崖の上には地層があって、講師は3メートルほど這い上がり説明をされました。この崖の上半分は褐色の礫層（れきそう）からなる大阪層群であり、その下部には緑色から青灰色の砂礫層からなる神戸層群が存在するという説明がありました。



崖の隣に古池があり水面に紅葉が映って美しい光景でした。とにかく観察物が豊富で見どころいっぱいの観察会でした。参加者は豊中にこんな良いところがあるとは知りませんでした、と喜んでいました。最後に東豊中配水場に向かい大阪方面や六甲山の遠景を眺めて終了としました。（三宅史郎）



※写真左上より 観察会の様子、ナラガシワ、タンキリマメ、ハゼノキ、ミツバアケビ、ヒサガキ
右上よりセンリョウ、コウヤボウキ、エノキタケ、サンゴハリタケ、カワラタケ、ピラカンサ



12月4日、千里中央公園野外炊さん場でリース作りのイベントを実施しました。コロナ禍での対策を十分取った上での実施です。参加者は17名（うち付き添いの保護者が2名）、当日参加の要望もありましたが材料の関係で断りました。

リースの材料は千里中央公園並びに周辺で採集したクズのつる、松ぼっくり、ツバキの実の殻斗、サンシュユの実、ナンテン、ヒイラギ、ナンキンハゼ、センダンの実、アメリカフウの実等です。

まず材料説明、取り付け方法の説明を行い、あわせて千里中央公園の貴重な自然の説明と保全活

動の内容を説明し、自然環境維持、またSDGsの取組みを強調しました。

いざ制作に入ると、自分の好きな材料ばかりを付けたり、全ての材料を付ける等の個性が表れ楽しそうです。一段落した段階で竹工作、実際にのこぎりを使って竹切りから入り、自分の好きなものを作ります。希望者が多く順番待ち、指導者も四苦八苦。さらに特別に焼き芋作りも実施、甘くて美味しい焼き芋を味わっていただきました。

最後に感想を聞くと、子どもたちからはめっちゃ楽しかった！、保護者からは昨年コロナ禍でイベントがなく、子どもたちにとってかわいそうな状況が続いていたが、今回参加出来てたいへん良かったとの声を聞き、やりがいがあったと感じています。また千里中央公園の環境が良好に維持できている状況を参加者に理解いただけ、さらに

アジェンダの活動をPRできたと思います。（岡本武司）



環境とわたし

《65》

井原 美香さん 地球温暖化対策 プロジェクト



3人の子どもたちと川の字になって眠る幸せな時間。その布団の中でふと、「温暖化で永久凍土が溶けると、未知のウイルスや細菌が出てくるかもしれない」という話を思い出しました。「そういえば温暖化って、今どうなっているのだろう。子どもたちはこれから、元気に幸せに暮らしているのだろうか…」。

温暖化の現状を知りたくて手に取ったのが『脱プラスチックへの挑戦』という本でした。気候危機により引き起こされる豪雨や熱波、海面上昇、食糧難、水不足、そして紛争…。危機的な現状や未来を知り、まずは自分のライフスタイルを変え

ることから始めたのが今年の一月でした。また、個人の取り組みを進めるだけではなく、行政や企業へのアプローチや協働も必要ではないかと考え、何かきっかけをつかめればと今年度からアジェンダに参加することにしました。

少しでも多くの方に気候危機の現状を伝え、アクションを起こしてもらえるような取り組みを進めていきたいと考えています。

子どもたちの生きる未来が、どうか平和で穏やかでありますように。



花と緑のネットワークとよなか

今年もコロナで「とよっぴーフェスタ」を断念 サツマイモ収穫イベントに約500人が挑む

秋に開催する花と緑の最大イベント「とよっぴーフェスタ」、今年も不実施となりました。2004年から参加・出店する関係者と開催を模索しましたが、コロナ感染防止の観点から中止を決めコンパクトなイベントをシリーズで行うことに変更し、10月16日をメインに、その前後サツマイモ掘りを市民参加で実施しました。



一番参加が多かった16日は157人が堆肥化施設の見学を行い、竹炭プロジェクト提供の竹遊具で遊び、野菜や花苗の購入、リユース食器の取り扱いを学び、芋ほりに挑戦しました。

スタッフが植え付け後、毎週火曜日に水やり、草刈りなど管理を徹底した畑で育ったお芋は、大きな物も含め豊作で、参加者には大変喜んでいただきました。

13日間11グループに及ぶ芋掘りは、会員等を除く延べ477人（大人261人、子ども216人）が挑み、家族で掘られる姿が印象的でした。特に幼児が多く、土の中から顔を出すお芋に満面の笑み。

スタッフの苦勞が報われたところです。

参加者には「とよっぴー」の認知度や堆肥化事業の調査を実施、回答者110人に対し認知度は63%、

堆肥化事業への評価は100%で安堵しました。

「とても大きなお芋が掘れて楽しかったです。最近よく話題となっている“フードロス”ですが、ムダにせず再利用できるシステムは素晴らしいと思います。子どもたちの未来のためにも続けていきたいです」「豊中市でこんな素晴らしい活動をされていると知り驚きましたが、日々のごみ・リサイクルについて改めて考える機会ができました」等々、貴重なご感想がたくさん寄せられました。

春先から約6か月にわたるお芋の成長を見届けてきたスタッフにとっては安堵と来年への意気込みが交錯した期間でした。（中村義世）

☆とよっぴー展を開催します！

3月10日（木）、11日（金） 10:00～15:00
@豊中市役所第二庁舎ロビー



全体事業

調査員奮闘記

～豊中エコショップ制度～

今年度、豊中エコショップ制度の調査員をしています。調査員の仕事の基本は、豊中エコショップに必要な認定項目（チラシや事務用紙等、紙の使用量の抑制に努めている等）を充たすお店を見つけることです。

その後、お店の方に豊中エコショップにご関心を持っていただき、申請をしていただけるよう色々とお伝えするのですが、お店の営業時間中でご多忙中であることに加えて、「エコショップとは何か、お店にとってのメリットは何か」を短時間でお伝えすることは大変難しいです。怪しい勧誘と間違えられて門前払いされることや、迷惑がられることが多々あり、心が折れそうになったこともあります。

しかしとても素敵な出会いもありました。その

お店の店長さんは、買い物に来たお客さんと対話する時間を大切にされており、なんとエコショップの案内で訪問した私とも、エコのこと、環境のこと、消費行動のことなどのお話の時間をたくさん作ってくださり涙が出そうになりました。私が訪問している間も常連さんがお買い物にいられて愛されているお店だなあと感じました。こんなに素敵なお店が豊中にあるなんて調査員の仕事をすまで知りませんでした。今では私の中で心のふるさとのような存在になりました。

エコというキーワードで、豊中の市民・お店・行政がつながるお手伝いをさせていただき、嬉しく思っています。これからどんな素敵なお店と出会えるか、ワクワクしています。（吉永恵子）



森林環境保全に関する自治体間連携協定を締結



池田隠岐の島町長と長内豊中市長



上森能勢町長と長内豊中市長

市は、令和3年（2021年）10月29日に鳥根県隠岐郡隠岐の島町と、令和3年（2021年）11月4日に大阪府豊能郡能勢町それぞれと「森林環境保全に関する自治体間連携協定」を締結しました。

同協定では、両町は森林のCO2吸収能力の維持向上につなげるため、「植える→育てる→使う→植える→…」といったサイクルでの森林環境保全に取り組み、本市は森林整備に関する植樹、下刈り、間伐、除伐などの支援や間伐材の有効活用などの支援を行います。

また豊かな自然に囲まれた両町の地域特性を活かし、SDGsの観点を含めた自然体験学習などを行います。

今後、協定に基づき森林環境の保全活動や自然体験学習などに連携して取り組みます。

また、公共施設の建替え・大規模改修での建物内部の木質化、事務用品やイス・机などに木材製品の利用を行うとともに、市民・事業者の方へは市のホームページ等を通じて木材利用の取組み内容等を紹介していきます。

森林環境保全に関する自治体間連携の項目

	隠岐の島町	能勢町
連携の項目	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二酸化炭素の吸収量を増加させるための森林整備 2. 森林資源や木材の有効活用に関すること 3. 自然とのふれあいや環境学習 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二酸化炭素の吸収量を増加させるための森林整備 2. 森林資源や木材の有効活用に関すること 3. 自然とのふれあいや環境学習 4. 町が行う電力事業に関すること

スケジュール

詳しくはホームページや広報とよなか、環境交流センターのおしらせなどをご覧ください。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が中止や延期になる場合があります。事前のご確認をお願いいたします。

竹炭焼き、竹の間伐体験

千里中央公園

ほぼ毎月開催 詳しくは事務局まで



身近な生き物調べ 天竺川調査 報告会

3月20日(日) 14:00~16:00

くらしかん

定員40人(先着順)、3月18日(金) 申込締切



とよっぴー地産地消採りたて野菜市

毎月第4木曜日 10:00~売切れまで

さわ病院



不要なものもアイデアで変身

市民がーから考えた楽しい工作まつり

3月12日(土) 13:30~16:00

環境交流センター

参加費500円、定員30人(先着順)

3月1日(火) 10時より受付



おもちゃ病院

毎月第2土曜日 10:00~11:30

環境交流センター

1世帯1点まで、修理費実費



とよっぴーの有料配布

2月13日(土)、24日(水)

3月13日(土)、24日(水)

10:00~11:00 緑と食品のリサイクルプラザ



エネルギーの自給自足に取り組む

おうちのルームツアー

3月26日(土) 10:00~12:00

環境交流センター

定員10人(先着順)、3月24日(木) 申込締切

※オンラインによる見学



編集室から

▼編集会議後、ニュースレター全体の構成や、どなたに執筆依頼するか、締切期限などちゃんと確認するんです。毎度、次の原稿は余裕をもって提出しないと…と反省するんです。けれども原稿の提出は今回も私がベベタ。病根は根深い。(R)

▼恐竜が国連議場に突如現れた。驚愕する人びとに恐竜は「絶滅を選ばな。手遅れになる前に人類を救え。言い訳をやめて、変化を起こすために立ち上がれ」と呼びかけるCOP26に合わせた動画はシンプルで分かりやすくセンスがいい。少しでも前にGO!(E)

▼10月末に八百屋の軒先にオレンジ色のすだれが目についた。柿が5個ずつ吊り下げられていた。それには〇〇さんと名札がついていた。軒先にテントが張られているので雨には当たらず南向きでよく日が当たる。干し上がるとまた次の柿が。(M)

▼インフルエンザ予防接種の際、医師から日頃飲んでいる薬や病名など聞かれたが、病名はともかく薬までは、と答えると「お薬手帳を見ておくように」と。最後に風邪にかからないよう細心の注意するよう言われ、何か宣告を受けたようで複雑な気持ちで帰宅。年には勝てません。皆さんもご自愛の程。(N)

▼3歳になる我が子が料理に興味を持ち始めました。おままごとでは満足できず、共にキッチンに立つのですが、包丁やコンロが危なっかしく毎日がお祭り騒ぎです。興味のあることにはどんどんチャレンジし、可能性の幅を広げていってほしいと思います。(K)

▼昨年末コンビニがホットミルクを半額で販売したり、メーカーが牛乳大量消費レシピを発信したりして牛乳の大量廃棄は回避されたが、余ったアベノマスクを全て廃棄、という報道には冷笑。質が悪くて廃棄したのもあったしなあ、まっいつものことか…(T)

《広報チーム》

R柿本、E新開、M馬淵、N中村、K小浴(こさこ)、T村上

とよなか市民環境会議アジェンダ21

TEL:06-6844-8611

Eメール:jimukyoku@toyonaka

-agenda21.jp

<https://toyonaka-agenda21.jp/>

豊中市立環境交流センター

<https://kankyokoryu.jp/>

